令和8年度地域ワークショップ開催結果（東海南中学校区）

1　ワークショップの概要

（１）　ワークショップの目的

村民主体の行政を積極的に進めるため、地区ごとの住民との対話を通じて、地域の状況や課題を把握し、課題解決につなげる。

（２）　ワークショップのテーマ

「日常生活を安心して送るために　自分でできること」

（３）　日程と参加人数

■対象者：東海南中学校区（村松地区、中丸地区、舟石川・船場地区）の地域住民

■日時、会場、参加人数

実施日等	実施場所	参加人数
令和８年１０月７日（水）１８：３０～２０：３０	中丸コミュニティセンター　会議室	１２人

（４）　タイムスケジュール

内容	時間
１　はじめに　（趣旨説明）	５分
２　村長挨拶	５分
３　自己紹介	１５分
４　テーマ説明	５分
５　懇談ルールの説明	５分
６　グループ対話①	２０分
（休　　憩）	１０分
７　グループ対話②	２５分
８　グループ意見の発表・村長からのコメント	３０分

2　グループ対話①　課題を出し合う

４つの小テーマに沿って課題を出し合った

グループ名	空き家	防犯	大雨や災害	その他
Ａグループ	・草が伸び放題 ・空き巣 ・所有者不明 ・害獣の住みか ・火事の危険性	・防犯設備の拡充（防犯灯・防犯カメラ）	・一人暮らしの高齢者への支援 ・防災行政無線の放送が聞こえづらい ・道路側溝等の内水氾濫 ・IT の活用による災害情報の取得	・自治会の行事（クリーン作戦・防災訓練等）の参加人数が少ない ・騒音問題 ・匿名・流動型犯罪グループ（通称：トクリュウ）の問題
Ｂグループ	・他人の敷地に勝手に入れない。 ・空き家になると、家族、まわりの人、自治会、役場が大変。 ・市街化調整区域の空き家問題 ・高齢化で空き家が増えている。	・一人暮らしの安否確認 ・近所に要注意人物がいるが、役場と警察からは対応できないと言われてしまっている。 ・普段見かけない人がいても会社勤めの人だと誰だか分からない。 ・自治会加入者が減少し、誰だか確認しにくい。 ・自治会や役場がどうにかしてくれると思っている。 ・防犯を自分のこととして考えていない。	・広域避難のあり方 ・水害避難所の選定	・井戸の普及 ・住んでいる地域の夜間が暗く、帰宅する小学生が危険 ・交通手段としてデマンドタクシーを充実してほしい。 ・交通機関が不足している。 ・買い物難民がいる。
Ｃグループ	・子供は外に出てしまっていて、将来、自宅が空き家になってしまうかもしれない。 ・近くに空き家があるが管理がされていない。雑草等の問題。	・防犯パトロール部員の高齢化、担い手不足 ・不用品の回収等と言って家に訪問する不審者がいる。	・家の前に川が流れており、大雨時の増水が心配。	・交通安全。30 キロ規制の道路だが速度を緩めない。信号のない交差点が危ない。 ・ゴミ出しのルールが守られない。分別がされていないものがある。 ・公共交通機関が身近にないので、将来（免許返納後）の足の確保が心配。 ・犬の糞の放置問題。散歩しているのは自治会内の人ではなさそう。

3　グループ対話②　解決策を考える

グループ対話①で出された課題から解決策を考える課題を選択

Ａグループ

解決策を考える課題
①空き家について
・空き家と防犯

（解決策）
①空き家について
（自助）
・相続人や不動産屋の看板を確認して連絡を取る。
・道路側の草刈り
・越境した木の伐採
・110 番通報
・散歩がてらの見守り
（共助）
・自治会で草刈り
・防犯パトロール
（公助）
・相続人の調査・連絡
・防犯灯・防犯カメラの設置
・くらしの安全課の活用

Ｂグループ

解決策を考える課題
①防犯について
・防犯を自分のこととして考えていない

（解決策）
①防犯について
・ケガと弁当は自分持ちの精神を持つ。
・街灯切れや道路破損等は自分で通報してもらう。
・隣の人は何をしている人か知るところから始める。
・近所の人との会話で情報収集する。
・同じ区域（班）の人と散歩がてら見回る。
・防犯の知識を伝える、教育する。
・防犯の基礎知識について勉強会を行う。
・IT リテラシーを高める。
・スマホを活用する。

Ｃグループ

解決策を考える課題

①防犯について

（解決策）

①防犯について

（自助）

・長期不在時の近所への声かけや身近なところでのあいさつ運動

・暗くなったら雨戸を閉めて防犯する。

・インターホンで確認する。

・二重窓や防犯ガラス窓にする。

（共助）

・安心安全部会によるパトロールの実施

・班長や役員の家にのぼりを設置して防犯ＰＲ

・警備会社による防犯パトロール

（公助）

・防犯カメラの設置

４　発表と村長コメント

【Ａグループの発表⇒村長からのコメント】

①空き家について

【発表】

・「空き家問題」について深掘りしたところ、様々な問題があることが分かってきた。安全・衛生面の問題では、草木が伸び放題になることで、小学生の通学の妨げになったり、害獣の住みかになる恐れがある。治安上の懸念では、いつの間にか不審者が住みついたり、心霊スポットとして有名になって人が集まり、騒音や迷惑行為が発生することもあるようだ。空き家の売却については、空き家の管理者が行政や周囲からのプレッシャーを感じ、慌てて売却した場合、価格が市場価格よりも安値であったり、正規ではないルートで売却した結果、よからぬ人達が集まる原因になってしまうケースもある。

・自分でできる空き家対策については、まずは相続人や不動産屋の看板を確認して連絡を取ること、私有地に越境している木の剪定や草むしりを行うこと、犬の散歩などの日常の行動の中でさりげなく周囲に目を配ることなどが挙げられた。

・地域やご近所でできることは、散歩をするときに「防犯パトロール」の腕章をつけて歩くこと、暗い場所への防犯灯の設置や防犯カメラの活用による環境整備を行うこと、迷惑行為や騒音などがあれば一人で抱え込まず 110 番や警察相談ダイヤルに通報し実績を積み重ねることで警察の対策につなげることが挙げられた。

・行政ができることとしては、「くらしの安全課」を積極的に活用し、指導や支援をうまく取り入れることが挙げられた。ただし、行政に頼りすぎると税負担増にもつながるため、バランス感覚も大切という意見が出た。

・空き家問題やそれに伴う防犯上の課題は、行政任せにするのではなく、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持って、みんなで考えていかなければならない問題である。今回の対話で出たさまざまなアイデアや意見を参考に、一人ひとりができることから一歩を踏み出し、安全で安心な東海村のまちづくりを進めていきましょう。

【村長コメント】

・空き家問題については、全国的な課題であると同時に、本村においても住民の皆さんの安全・安心を脅かす切実な問題となっている。これまで都市政策課で対応していたが、今年度からは新設の「くらしの安全課」へ移管し、防犯や防災、生活安全の対策と併せて対応している。

・空き家は放置されると管理不全状態になり、最終的には行政による解体が必要になるケースもある。しかし、事後対応には限界があり、空き家自体を「発生させないこと」が何よりも重要と考えている。高齢者の一人暮らしや相続問題が発生する前に、ご自身の財産である「家」を将来どうするかについて、元気なうちから家族や周囲と話し合って決めておくことが不可欠である。福祉の現場とも連携しながら、こうした予防への意識を高める啓発に力を入れていく。

・すでに発生してしまった空き家については、徹底した相続人調査と遠方にお住まいの方

には文書等の指導を行っている。また、道路への倒木の恐れなど、周辺環境に悪影響を及ぼす場合は、村で伐採等の対応を行っているが、どちらも法的・経済的に限界がある。また、相続放棄等によって権利関係が複雑化し、行政が容易に手出しできないケースも増えている。

・空き家の増加に伴い、不審者の侵入や泥棒などの防犯上のリスクも高まっている。地域や役場の見守りだけでは安全確保が難しいため、警察と連携し、不審な状況が見受けられる場合は、パトロール強化など、抑止力の向上が重要になる。また、村の顧問弁護士とも協議を行いながら、複雑な権利関係やトラブルに対応している。

・空き家問題は、行政の力だけでは解決できない。「自分たちの地域は自分たちで守る」という視点に加え、ご自身の自宅についても「将来どうするか」を早めに考え、対策しておくことがこれからの安全・安心なまちづくりにつながる。

・村としても、健全なまちづくりと空き家の再生・活用に向けて取り組んでいくので、住民の皆さんのご理解とご協力をお願いしたい。

【Ｂグループの発表⇒村長からのコメント】

①防犯について

【発表】

・グループ対話①では、他人の敷地には勝手に入れないといった空き家の課題や、自治会加入者の減少により近所の人が分からない、自治会や役場がどうにかしてくれると思っている人が多いといった防犯の課題が出され、グループ対話②のテーマは「防犯を自分のこととして考えていない」という防犯の課題について対策を考えた。

・まず自助として、ケガと弁当は自分持ちの精神を持つ、街灯の玉切れや道路破損等は（自治会を通さずに）自分で通報してもらうという意見が出た。

・次に共助として、近所の人たちのことを知り、あいさつをする。知らない人がいたら声をかける。近所の人たちとの会話の中から不審者の情報等を得る。同じ区域（班）の人たちと散歩がてら見回るといった意見が出た。

・最後に公助として、教育や広報に力を入れ、住民に防犯の知識を伝えたり、IT リテラシーを高め、公式 LINE のメニューなどスマホを活用したりできないかという意見が出た。

【村長コメント】

・防犯について、役場が何とかしてくれるだろうと思っている住民は多いと思うが、件数が多くニーズも細かいので、現状の役場のマンパワーではすべてを対応することは難しい。

・個人で勉強してもらうことも必要だが、近所に溶け込むことも大切で、声掛けから始まってコミュニケーションをとることで情報共有ができるというのが、昭和・平成時代の考え方である。スマホ時代の令和では、LINE での通報受付を開始したが、通報件数が多いと解決されていないと不満を感じる住民が出てきてしまうので、通報を受付けるだけでなく、村の対応がどの段階なのか現状を返信できる仕組みを作りたいと考えている。

・防犯対策について、広報紙でのお知らせは一方的な情報提供で、困りごとへの解決にはなっていないのでリアルな環境での意見交換が必要だと考えている。

【Ｃグループの発表⇒村長からのコメント】

①防犯について

【発表】

・グループ対話①で防犯パトロール部員の高齢化や不審者問題といった意見が出され、グループ対話②のテーマは防犯に絞って対策を考えた。

・まず自助として、近所への声かけや身近なところであいさつをするといった地域でのコミュニケーションが重要であるとの意見が出た。他に自分でできることとして、インターホンの活用や二重窓・防犯ガラス窓といった対策が出た。

・次に共助として、地区自治会の安心安全部会によるパトロールの実施、フローレスタ須和間の警備会社による防犯パトロールがある。パトロールまでいかなくても、地域が防犯の意識が高いということを示す意味では、班長や役員の家にのぼりを設置するのも効果的であるとの意見が出た。

・公助としては、役場で防犯カメラの設置を進めてもらえれば防犯に役に立つのではないかとの意見が出た。

【村長コメント】

・対策として声かけという案は色々なところで聞く。だんだん他人に無関心になってきていて、あいさつが出来なくなっているが、声かけができるだけでも防犯意識は高まるし、外部の人が入りづらくなるので、大事な視点であると思う。

・防犯パトロールを実施してもらっているが担い手が高齢化している。経費がかかるが警備会社に依頼するのもやむを得ないと思うが、経費は誰が負担するのかという問題もあるので、真剣に考える時期にきているのだと思う。

・防犯カメラは一定程度の抑止効果はあるが、設置して終わりではなく維持管理費がかかり、結局はお金で解決することになる。皆さんの大切な税金をお預かりしている役場として、ありとあらゆるニーズが増えている中で何を最優先するのか、どこに税金を投入するのかという優先順位を決めなければならない。安心安全なまちづくりを考えると、防犯の優先順位は高いと思う。現在、茨城県警察によるモデル地区実証事業（モデル地区を選定して街頭防犯カメラを設置）の検証を警察で実施している。検証結果を皆さんに説明した上で、村として設置を進めていかなければならないと思っている。

・今日いただいた意見は単なる意見ではなく、これを実行に移す段階にきていると思っている。役場内だけでなく議会とも議論しながら、税金を使わせていただくということをはっきりと言わなければならないと改めて感じたので、しっかりと取り組んでいきたい。

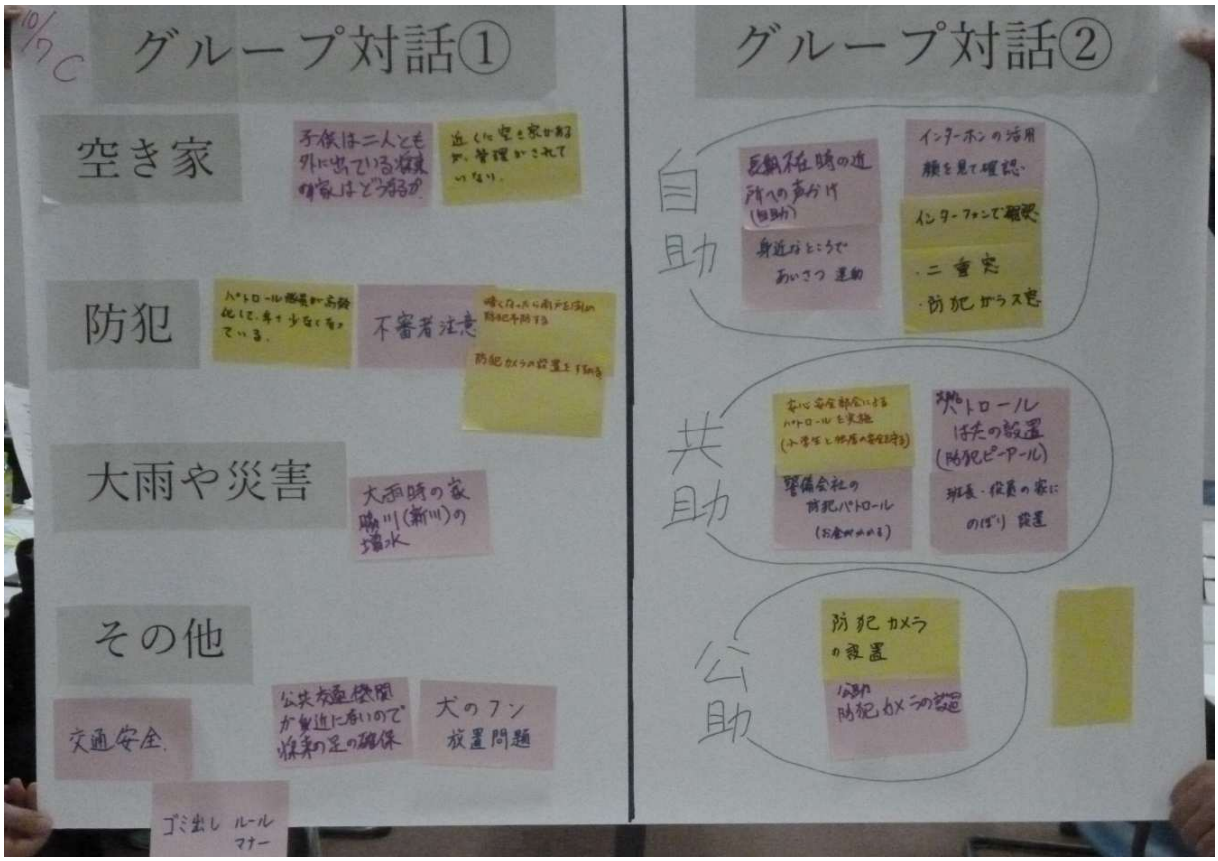
【Ａグループ】


グループ対話①
空き家
防犯
大雨や災害
その他
グループ対話②
自助
通報
110番 #9110
共助
公助
防犯灯
カメラ(防犯)

【Ｂグループ】


グループ対話①
空き家
防犯
大雨や災害
その他
グループ対話②
防犯を自分ごとと捉えていない
教育
スマホの活用
広報(公助)

【Ｃグループ】


10/7C
グループ対話①
空き家
子供は二人とも外に出ている
近くに空き家が
防犯
不審者注意
大雨や災害
大雨時の家
その他
交通安全
公共施設
犬のフン
ゴミ出し ルール マナー
グループ対話②
自助
インターホンの活用
顔を見て確認
インターフォンで確認
二重定
防犯ガラス
共助
防犯カメラの設置
(防犯ビーアール)
公助
防犯カメラの設置

5　アンケート結果

回答数12人

10～20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
0 人	0 人	0 人	0 人	3 人	8 人

※1 人未回答

問 1:全体について

・本日のテーマおよび内容全体について、どのように感じましたか。

[5] 大変満足	[4] 満足	[3] どちらでもない	[2] やや不満	[1] 不満
1 人(8%)	10 人(83%)	0 人(0%)	1 人(8%)	0 人(0%)

自由意見(その理由や、ご感想を自由にお書きください。)

・具体的な内容がわかり、防犯の必要性を感じた。
・他の方の意見や考え方を伺うことができた。
・１人では気がつかない点が多々有り、情報も含めて大変参考になった。
・テーマの名称がおおまかすぎて、わかりづらかった。
・みなさんの考える課題であり適切である。
・いろいろな意見がきけた。

問 2:グループワーク形式の話し合いについて

・グループワーク形式による話し合いについて、満足していただけましたか。

[5] 大変満足	[4] 満足	[3] どちらでもない	[2] やや不満	[1] 不満
1 人(8%)	10 人(83%)	1 人(8%)	0 人(0%)	0 人(0%)

自由意見(その理由や、話し合いの中で感じたこと(進行含む)があればお書きください。)

・具体的な内容がわかり、防犯の必要性を感じた
・いろいろな人が集まると様々な意見があり参考になった。
・十分時間はあったが、それでももう少し時間があればと思った。
・各者の意見を聞けてよかった。
・時間が短いように感じた。
・話しやすい。
・とてもスムーズだった。

問 3:自分ごととしての捉え方について

・本日のテーマや話し合いを通じて、地域の課題を「自分ごと」として捉えるきっかけになりましたか。(いずれか一つに〇)

[5] 強く感じた	[4] まあまあ感じた	[3] どちらでもない	[2] あまり感じなかった	[1] 全く感じなかった
4 人(33%)	7 人(58%)	0 人(0%)	1 人(8%)	0 人(0%)

自由意見(具体的に「自分ごと」として感じたことや、今日からやってみたいと思ったアイデアなどがあればお書きください。)

・防犯パトロール
・くらしの安全課、参考になった。
・自分でできることは自分でやり、出来ない事は相談したい。
・自分ごととしてとらえないと、何も解決しないことを再認識した。
・ふだんから色々やっているので、あらためて、どうこうというのは感じられない。
・LINE の村公式の充実がのぞましい。
・今後自分でもできる意見をきけた。
・あいさつ　インターホン　防犯パトロール